

## 今週（2月14日から2月18日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期が切り替わる週となり、15日と16日以降でレート水準に変化が見られた。無担保コールO/N物は国内勢の調達を中心に▲0.040～▲0.010%のレンジでの出会いで始まった。積み最終日の15日は着地に向けた調整により、全般的に取り上がる動きが見られ、▲0.025～▲0.001%のレンジでの出会いと、レート水準は上昇した。新積み期に入ると、レート水準は若干低下し、▲0.05～▲0.01%のレンジでの出会いで推移した。週末3日積みとなる18日はレート水準が上昇し、▲0.04～▲0.008%の出会いで推移した。無担保コールO/N物加重平均レートは15日が▲0.010%となったものの、それを除けば概ね▲0.02%前後の動きとなった。ターム物に関しては、ショートターム物で▲0.010%近辺での出会いが散見された。日銀当座預金残高は520兆円台半ばで始まり、15日の年金定時払い等を受け、540兆円弱まで増加した。

また、先週10日の夕方に指値オペのオファーが事前通知されており、14日には固定利回り方式の国債買入オペ（指値オペ）が実施された。米国やユーロ圏等、複数の海外中銀が金融緩和縮小・利上げ方向となる中、日本の長期金利も10日には一時0.23%まで上昇しており、日銀が許容する長期金利の変動幅±0.25%程度に接近していた。対象は10年利付国債で、オファーは10時10分に行われた。10年利付国債365回の買入利回りが0.250%であり、実勢より高い水準（買入価格が安い）であったため、応札は無かった。実施は2018年7月30日以来となる。指値オペの実施をオファー日より前に予告したのは初めてであった。

### ●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.085～▲0.075%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、2Y425～433、5Y140～150、10Y350～365、20Y170～179、30Y60～73、40Y10～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、2年債、5年債の金利が上昇していることが意識され、1Y物を中心に軟調な推移となった。

15日に実施された短国買入オペは、前回と同額(5,000億円)オファーされ、弱めの結果となった。

17日に実施された1Y物の入札は、2年債や5年債の金利が上昇していることへの警戒感から、按分利回▲0.0491%、平均利回▲0.0551%と弱い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

18日に実施された3M物の入札は、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、やや堅調に推移した。

### ●CP市場

今週のCP市場は償還総額9,800億円程に対して、発行総額1兆700億円程となった。陸運、鉄鋼、機械業態等が大型発行を実施した。市場残高は先週に引き続き26兆円台半ばでの推移となっている。レート水準については、引き続き新型コロナオペの担保需要からマイナス圏での決着が大半を占めている。特に希少銘柄では期内物であっても積極的なビッドが見られる場面が多かった。一方で、ロングタームの案件に関しては、先行き不透明感から水準を探る動きも見受けられた。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/14 (月)	27,079.59	0.215	115.40	△ 0.019	△ 0.082	5,259,900
2/15 (火)	26,865.19	0.210	115.42	△ 0.010	△ 0.086	5,366,400
2/16 (水)	27,460.40	0.215	115.69	△ 0.024	△ 0.087	5,388,800
2/17 (木)	27,232.87	0.220	115.45	△ 0.022	△ 0.086	5,400,100
2/18 (金)	27,122.07	0.215	114.94	△ 0.018	△ 0.085	5,401,100

## 来週（2月21日から2月25日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
2/21 (月)					New York祝日 (Presidents' Day)
2/22 (火)	1月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	流動性供給 5,000億円 2/24発行	交付税借入 10,500億円 3/4借入		12月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 2月の米CB消費者信頼感指数
2/23 (水)	天皇誕生日				1月のユーロ圏消費者物価指数改定値
2/24 (木)		TB6M 34,000億円 2/25発行			10-12月期の米GDP改定値 1月の米新築一戸建て販売件数
2/25 (金)	2月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 12月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	TB3M 57,000億円 2/28発行	2Y 30,000億円 3/1発行	交付税借入 10,500億円 3/8借入	1月の米耐久財新規受注 1月の米個人所得・消費支出

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/21 (月)	▲ 200	▲ 47,100	▲ 47,300	CP買入	▲ 300		▲ 300	▲ 47,600	TB3M発行▲57000償還43000 TB1Y発行▲35000償還9400 エネルギー対策借入▲6500期日5500
2/22 (火)	0	3,000	3,000	社債買入		800	800	3,800	
2/23 (水)	天皇誕生日								
2/24 (木)	0	▲ 3,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	流動性供給▲5000
2/25 (金)	▲ 1,000	5,000	4,000				0	4,000	TB6M発行▲34000償還33500 国有林野借入▲958償還936
週間合計	▲ 1,200	▲ 42,100	▲ 43,300	—	▲ 300	800	500	▲ 42,800	

2/21は日銀予想、2/22以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期序盤ではあるが、地銀を中心に引き続き調達ニーズが旺盛なため、無担保コールO/N物加重平均レートは上昇傾向で推移することが見込まれる。レポ市場は、GC T/Nは、参加者のスタンスに大きな変化がなければ横ばい圏で推移することが見込まれる。短国市場は、24日に6M物、25日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、22日に実施が予想される短国買入オペのオフア額にも注目したい。CP市場は、月末初の発行にあたり、年度末に向けての事業法人の発行動向が注目される。22日にはCP等買入オペが5000億円予定されており、レート動向が注目される。また、25日17時にはCP・社債等買入のオフア日程が発表されると見込まれる。買入れ増額措置が終了する4月のオフア金額に注目したい。

主要なイベントは、海外では24日に10-12月期の米GDP改定値が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。